

## 2016年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2017年4月28日

和光大学地域連携研究センター  
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 半田 滋男

研究プロジェクトの名称							
地域社会におけるアート（ 1年目）							
<b>研究目的</b> このプロジェクトでは、麻生区内の野外をフィールドとして、主に学生作品を展示することで、大学、学生、地域住民、行政の協働による、地域イベントとしてのアートプロジェクトを計画・実施し、その方法論の確立と、地域住民及び来訪者の意識にどの程度の変化が確認できるかを定性的に確認することを目的とする。また、対内的には、在学生に出品作の制作を促すことで、自閉的な表現へ収束しがちな昨今の学生たちに、外界に向けた表現活動を意識させる教育機会ともする。							
プロジェクト所属メンバー（氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。）							
半田滋男	教	倉方雅行	教	近藤 忠	教	詫摩昭人	教
川崎市麻生区役所企画課	共						

**研究活動の経過（800字以内）**（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。）

2016年4月企画作業開始。  
 5月麻生区役所と初回打ち合わせ。以降、学内関係各教員と打ち合わせ。  
 6月企画書原案作成開始。各ゼミごとに現地調査開始。  
 7月作品計画作成継続。8月夏期休暇。  
 9月作品計画実施案作成。麻生区役所と打ち合わせ。  
     印刷物作成・広報活動開始。  
 10月 作品プラン詳細修正。  
     作品製作 下旬展示作業・公開へむけて設置作業。  
     Webページの整備。更新作業。  
 11月作品現場での展示作業開始。  
     自11月12日至20日作品公開期間。  
 11月下旬。作品撤去作業。  
 12月 総括のための打合せ。

2017年1月 記録及び報告作成  
 2月記録集編集作業。  
 3月記録集作成。

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

このプロジェクトでは、麻生区内の野外をフィールドとし、学生作品を展示することで、大学、学生、地域住民、行政の協働による、地域イベントとしてのアートプロジェクトを計画・実施し、地域住民、来訪者、主催側である学生の意識にどのような変化がおきるかを定性的に確認することを目的とする。

16年度初春から、別記のようなスケジュールで、展覧会実施に向けて実務、11月中旬に野外展覧会の形態で実現した。結果は、作品および展覧会として結実するとともに、来訪者に対するアンケート調査によって分析される。2016年度の段階で実地から得られた結果とアンケートから得られた反応は以下の通りである。

1. イベントの告知について：

集計から「市政だより」「知人からの紹介」以上に新聞に掲載された効果が大きい。2紙の地方版に掲載されたが、依然として新聞の効果は大きいことが確認される。

2. 作品に対する嗜好

大規模なインスタレーションによる作品が圧倒的に人気を集めている。

3. 展覧会企画に対する反応

「大変満足」「ほぼ満足」が87%を占め、地域住民による反応はきわめて好評であった。またその他、直接聴取によっても、好意的な反応がほとんどを占めた。

4. 学生への教育効果について

アニメ世代の学生にとって、工具を手にして木材と格闘し、泥にまみれてブロックを運ぶような作業は想定外のものであり、作業中の反応は不評である。しかし、作品完成後に鑑賞者から得られる反応は得がたいものであり、中心的に参加した学生の意識は明らかに変容しつつある。

5. 課題点

野外企画の宿命ではあるが、企画が天候に左右され、最終日に企画したパフォーマンス、解説ツアーの参加者が少なかったことが惜まれる。並み居る地域展に比較するときわめて小規模な展覧会ではあり、遠方からの来訪者ではなく近隣住民に文字通り散歩がてら、楽しんでもらったことが収穫である。同時に作品に対する完成度、タイトルの表示方法など、向上させるべき点がつまびらかにされた。

6. 今後に向けて

自治体の関与する事業であることもあり、企画を進行させる上で、地域住民と直接接触する局面が少なかったが、その点を改善し、相互に意思疎通を図りたい。

芸術が芸術自体の自閉ではなく、地域あるいは社会へ向けてなしえることを考察するよすがとなっている。

国内の様々な例を見ても、この種のイベントは、地域に認知されるまで数次にわたる継続性が要求される。今年度までの時点では、イベントは地域に根付いたとは言えない。周知の方法、作品の話題性、そこからの地域への還元を次年度の課題として模索し、向上させることとしたい。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2016年4月～2017年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

『サトヤマアートサンポ2015・6 Breath<Art 記録集』和光大学表現学部芸術学科 2017.3

※ 提出期限=2017年4月28日（金） 提出先=企画室企画係（担当:奥名）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけワープロで記入し、e-mailで送信してください。

※ [kikaku@wako.ac.jp](mailto:kikaku@wako.ac.jp)（企画係）